

瑞山会会報

第19号

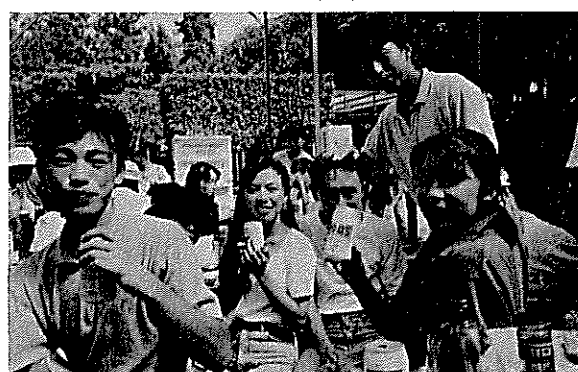
平成4年12月21日発行

編集発行 / 名古屋市立大学経済学部同窓会・瑞山会編集部
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1(名古屋市立大学経済学部内)

満腹 満足 夏のデーキャンプ!!



全員満腹で記念写真



これも おいしいわ!!

瑞山会夏の行事として恒例になりました、デーキャンプ(バーベキュー)が、去る9月6日(日)内海フォレストパークにて行われました。9月の第1週という行楽日和の中、多数の会員の方にお集まりいただきました。また、今回は、一段とご家族づれの方の参加が目立ち、会員ジュニア達の元気よさには、若い会員も終始おされっ放しでした。

前田会長と逸見事業部長の挨拶の後、それぞれビール、ジュース片手に、男性は火を起こし、女性は材料の準備へととりかかりました。キャベツ、玉ねぎ、なす、にんじん、しいたけ、ピーマン、ソーセージ、いか……もちろん牛肉もたっぷり用意されていました。次々と焼かれ、食べられていく野菜、肉。しかし、当日の人気は何といても“焼きそば”にあったのではないのでしょうか。手間がかかるにもかかわらず、焼いても焼いても空のお皿が差し出されるため、焼いている本人の口にはいつまでたっても入らない程でした。

バーベキューが一段落すると、次は腹ごなしに宝探しが始まりました。待ってましたとばかりのジュニア達と、それに負けず劣らずはしゃぐ大人達には我を忘れるひとときであったようです。瑞山会特製の賞品(./)を獲得し、満腹満足した全員で記念撮影し、自由解散となりました。

日が落ちるにはまだまだ余裕があったので、その後フォレストパーク内で遊び、あるいは素晴らしい伊勢湾の眺めを満喫し、心地好い潮風に吹かれながら、しばし学生に戻ったような気がした方も大勢いらっしゃったのではないのでしょうか。

来年もまた企画いたします。今回参加された方はもちろん、参加できなかった方も次回をお楽しみにお待ちください。

通常総会報告

第14期の通常総会が10月3日、名市大山の畑キャンパス学生会館ホールにて開かれました。今回は来賓として医学部青山光子先生、薬学部久田金春先生、榊原仁作先生、元経済学部松永嘉夫先生をお招きし、ご祝辞を頂きました。下記の事が承認・決定されました。総会后に食堂ホールにおいて懇親会を開き会員の親睦を深めました。

◇ 経過報告

◇ 事業計画

1. 瑞山会名簿（追録）の発行
2. 瑞山会会報の発行
3. 卒業祝賀会助成
4. 会員親睦会の実施
5. 成績優秀者表彰
6. 事業部の活動 大学祭 他



◇ 会計報告（決算報告・予算案）

◇ 会計監査報告

◇ 役員選出および報告

瑞山会役員
理 事

所属部	氏 名	年次	ゼミ名
会 長	前 田 勝 昭	1	岡 崎
副 会 長	近 藤 常 夫	1	岡 崎
”	多 和 田 克 己	4	岡 崎
”	佐 藤 克 得	8	岡 崎
庶務部長	八 木 三 博	5	山 本
副 ” 部	大 矢 邦 博	20	多 和 田
庶 務 部	大 渡 辺 尚	3	柴 藤
”	杉 本 仁	8	柴 藤



庶 務 部	荒 倉 木 小 笠 橋 手 山 榊 前 伊 鈴 田 寺 水 松 服 石 柴 櫻 逸 杉 都 木 伊 加 岡 村 畔 児 石 苗 中 伊 坂 坂 (新任)	美 和 子 美 剛 生 生 郎 也 茂 進 雄 彦 夫 治 誠 典 典 治 晴 世 弘 義 比 古 作 明 実 雄 久 一 二 彦 悟 治 孝 修 信 之	9 14 17 6 8 1 3 1 4 5 7 7 11 13 16 18 21 22 22 1 5 3 5 5 6 10 15 19 22 23 23 5 6 2 21 25 25 25 25	木 松 辻 中 醍 牛 松 松 松 妙 芝 岡 牛 宮 塩 安 上 神 國 松 松 山 岩 柴 宮 中 松 星 妙 國 牛 木 山 山 牛 國 宮 國 宮 岸	村 永 居 瑚 嶋 永 永 永 見 原 崎 嶋 川 見 藤 村 山 村 永 永 本 橋 田 川 居 井 野 見 村 嶋 村 本 本 嶋 村 原 村 原
編 集 部 長	美 和 子 美 剛 生 生 郎 也 茂 進 雄 彦 夫 治 誠 典 典 治 晴 世 弘 義 比 古 作 明 実 雄 久 一 二 彦 悟 治 孝 修 信 之	9 14 17 6 8 1 3 1 4 5 7 7 11 13 16 18 21 22 22 1 5 3 5 5 6 10 15 19 22 23 23 5 6 2 21 25 25 25 25	木 松 辻 中 醍 牛 松 松 松 妙 芝 岡 牛 宮 塩 安 上 神 國 松 松 山 岩 柴 宮 中 松 星 妙 國 牛 木 山 山 牛 國 宮 國 宮 岸	村 永 居 瑚 嶋 永 永 永 見 原 崎 嶋 川 見 藤 村 山 村 永 永 本 橋 田 川 居 井 野 見 村 嶋 村 本 本 嶋 村 原 村 原	
副 編 集 部	美 和 子 美 剛 生 生 郎 也 茂 進 雄 彦 夫 治 誠 典 典 治 晴 世 弘 義 比 古 作 明 実 雄 久 一 二 彦 悟 治 孝 修 信 之	9 14 17 6 8 1 3 1 4 5 7 7 11 13 16 18 21 22 22 1 5 3 5 5 6 10 15 19 22 23 23 5 6 2 21 25 25 25 25	木 松 辻 中 醍 牛 松 松 松 妙 芝 岡 牛 宮 塩 安 上 神 國 松 松 山 岩 柴 宮 中 松 星 妙 國 牛 木 山 山 牛 國 宮 國 宮 岸	村 永 居 瑚 嶋 永 永 永 見 原 崎 嶋 川 見 藤 村 山 村 永 永 本 橋 田 川 居 井 野 見 村 嶋 村 本 本 嶋 村 原 村 原	
事 業 部 長	美 和 子 美 剛 生 生 郎 也 茂 進 雄 彦 夫 治 誠 典 典 治 晴 世 弘 義 比 古 作 明 実 雄 久 一 二 彦 悟 治 孝 修 信 之	9 14 17 6 8 1 3 1 4 5 7 7 11 13 16 18 21 22 22 1 5 3 5 5 6 10 15 19 22 23 23 5 6 2 21 25 25 25 25	木 松 辻 中 醍 牛 松 松 松 妙 芝 岡 牛 宮 塩 安 上 神 國 松 松 山 岩 柴 宮 中 松 星 妙 國 牛 木 山 山 牛 國 宮 國 宮 岸	村 永 居 瑚 嶋 永 永 永 見 原 崎 嶋 川 見 藤 村 山 村 永 永 本 橋 田 川 居 井 野 見 村 嶋 村 本 本 嶋 村 原 村 原	
副 事 業 部	美 和 子 美 剛 生 生 郎 也 茂 進 雄 彦 夫 治 誠 典 典 治 晴 世 弘 義 比 古 作 明 実 雄 久 一 二 彦 悟 治 孝 修 信 之	9 14 17 6 8 1 3 1 4 5 7 7 11 13 16 18 21 22 22 1 5 3 5 5 6 10 15 19 22 23 23 5 6 2 21 25 25 25 25	木 松 辻 中 醍 牛 松 松 松 妙 芝 岡 牛 宮 塩 安 上 神 國 松 松 山 岩 柴 宮 中 松 星 妙 國 牛 木 山 山 牛 國 宮 國 宮 岸	村 永 居 瑚 嶋 永 永 永 見 原 崎 嶋 川 見 藤 村 山 村 永 永 本 橋 田 川 居 井 野 見 村 嶋 村 本 本 嶋 村 原 村 原	
名 簿 部 長	美 和 子 美 剛 生 生 郎 也 茂 進 雄 彦 夫 治 誠 典 典 治 晴 世 弘 義 比 古 作 明 実 雄 久 一 二 彦 悟 治 孝 修 信 之	9 14 17 6 8 1 3 1 4 5 7 7 11 13 16 18 21 22 22 1 5 3 5 5 6 10 15 19 22 23 23 5 6 2 21 25 25 25 25	木 松 辻 中 醍 牛 松 松 松 妙 芝 岡 牛 宮 塩 安 上 神 國 松 松 山 岩 柴 宮 中 松 星 妙 國 牛 木 山 山 牛 國 宮 國 宮 岸	村 永 居 瑚 嶋 永 永 永 見 原 崎 嶋 川 見 藤 村 山 村 永 永 本 橋 田 川 居 井 野 見 村 嶋 村 本 本 嶋 村 原 村 原	
副 名 簿 部	美 和 子 美 剛 生 生 郎 也 茂 進 雄 彦 夫 治 誠 典 典 治 晴 世 弘 義 比 古 作 明 実 雄 久 一 二 彦 悟 治 孝 修 信 之	9 14 17 6 8 1 3 1 4 5 7 7 11 13 16 18 21 22 22 1 5 3 5 5 6 10 15 19 22 23 23 5 6 2 21 25 25 25 25	木 松 辻 中 醍 牛 松 松 松 妙 芝 岡 牛 宮 塩 安 上 神 國 松 松 山 岩 柴 宮 中 松 星 妙 國 牛 木 山 山 牛 國 宮 國 宮 岸	村 永 居 瑚 嶋 永 永 永 見 原 崎 嶋 川 見 藤 村 山 村 永 永 本 橋 田 川 居 井 野 見 村 嶋 村 本 本 嶋 村 原 村 原	
會 計 部 長	美 和 子 美 剛 生 生 郎 也 茂 進 雄 彦 夫 治 誠 典 典 治 晴 世 弘 義 比 古 作 明 実 雄 久 一 二 彦 悟 治 孝 修 信 之	9 14 17 6 8 1 3 1 4 5 7 7 11 13 16 18 21 22 22 1 5 3 5 5 6 10 15 19 22 23 23 5 6 2 21 25 25 25 25	木 松 辻 中 醍 牛 松 松 松 妙 芝 岡 牛 宮 塩 安 上 神 國 松 松 山 岩 柴 宮 中 松 星 妙 國 牛 木 山 山 牛 國 宮 國 宮 岸	村 永 居 瑚 嶋 永 永 永 見 原 崎 嶋 川 見 藤 村 山 村 永 永 本 橋 田 川 居 井 野 見 村 嶋 村 本 本 嶋 村 原 村 原	
副 會 計 部	美 和 子 美 剛 生 生 郎 也 茂 進 雄 彦 夫 治 誠 典 典 治 晴 世 弘 義 比 古 作 明 実 雄 久 一 二 彦 悟 治 孝 修 信 之	9 14 17 6 8 1 3 1 4 5 7 7 11 13 16 18 21 22 22 1 5 3 5 5 6 10 15 19 22 23 23 5 6 2 21 25 25 25 25	木 松 辻 中 醍 牛 松 松 松 妙 芝 岡 牛 宮 塩 安 上 神 國 松 松 山 岩 柴 宮 中 松 星 妙 國 牛 木 山 山 牛 國 宮 國 宮 岸	村 永 居 瑚 嶋 永 永 永 見 原 崎 嶋 川 見 藤 村 山 村 永 永 本 橋 田 川 居 井 野 見 村 嶋 村 本 本 嶋 村 原 村 原	
代 議 員	美 和 子 美 剛 生 生 郎 也 茂 進 雄 彦 夫 治 誠 典 典 治 晴 世 弘 義 比 古 作 明 実 雄 久 一 二 彦 悟 治 孝 修 信 之	9 14 17 6 8 1 3 1 4 5 7 7 11 13 16 18 21 22 22 1 5 3 5 5 6 10 15 19 22 23 23 5 6 2 21 25 25 25 25	木 松 辻 中 醍 牛 松 松 松 妙 芝 岡 牛 宮 塩 安 上 神 國 松 松 山 岩 柴 宮 中 松 星 妙 國 牛 木 山 山 牛 國 宮 國 宮 岸	村 永 居 瑚 嶋 永 永 永 見 原 崎 嶋 川 見 藤 村 山 村 永 永 本 橋 田 川 居 井 野 見 村 嶋 村 本 本 嶋 村 原 村 原	

第14期 貸借対照表

会 計 報 告

平成4年3月31日現在

(単位 円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
普通預金	411,886	基金積立金	10,575,250
現金	92,739	名簿発行費引当金	800,000
郵便振替口座	0	未払金	153,470
定額貯金	0		
定期預金	0		
割引信用債券	3,581,988		
金銭信託	882,107		
貸付信託	6,560,000		
合 計	11,528,720		11,528,720

第14期 収支計算書

第15期 予 算 案

(単位 円)

勘定科目	予 算 額	実 績 額	予 算 額
(収入の部)			
会 費 収 入			
新 入 学 生	4,320,000	4,320,000	4,400,000
そ の 他	0	0	0
小 計	4,320,000	4,320,000	4,400,000
会 費 外 収 入	500,000	786,952	500,000
基金積立金とりくずし	0	0	0
収 入 計	4,820,000	5,106,952	4,900,000
(支出の部)			
名簿発行費引当金	687,424	687,424	800,000
名簿追録発行費	260,000	325,650	300,000
会 報 発 行 費	480,000	337,325	400,000
総 会 費	100,000	60,720	100,000
新 卒 業 生 祝 賀 会 費	200,000	400,000	200,000
通 信 費	750,000	794,771	750,000
事 務 運 営 費	950,000	927,865	950,000
事 業 費	550,000	515,984	600,000
基 金 積 立 金	842,576	1,057,213	800,000
支 出 計	4,820,000	5,106,952	4,900,000

11/13 ステージでは、ミス市大祭も催されました。



市大祭



今年もOBコーナーはにぎわいました。ゲームは大人気

ゼミナール紹介

岸ゼミナール

「マーケティング」という言葉を聞いたことがありますか。マーケティングとは、個人および組織の目標を満足させる交換を創造す



るために、アイデア、財、サービスについてコンセプトづくり、価格設定、プロモーション、流通を計画し、実行する過程である、と 1985 年のアメリカ・マーケティング協会で定義されています。

岸ゼミでは、3 年生はマーケティングのプランニングができるようになることを目標に、4 年生はそれまでの知識を応用して個性的な卒論を書けるように、岸先生のきめ細かい指導のもと、それぞれ頑張っています。

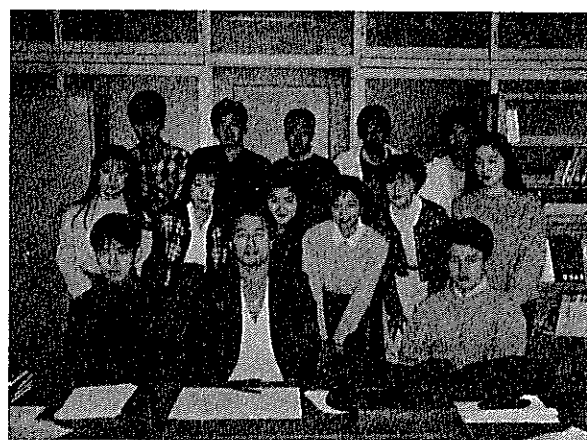
ゼミ生は、3 年生は 9 人（内女子 3 名）、4 年生は 8 人（内女子 4 名）で、ゼミの授業は別れて受けているものの、各行事に参加して親睦を深め、和気あいあいとしています。

教科書を読むばかりではなく、自分の知識や能力を活用し、実習をして大きな成果を得たいという人にぴったりのゼミだと思います。

松村ゼミナール

私達のゼミの専攻は「労働経済論」ということで、日本の労働問題について学んでいます。具体的には、労働市場・賃金・労働組合・労使関係・労働政策・外国人労働者受け入れ問題等の現状と分析のための手法について学んでいます。

私達のゼミはまだ出来て間もなく、今年で 2 年目の新しいゼミであって、歴史や伝統といったものではありません。おまけにゼミ室にも何もありません。従って、「これが松村ゼミです！」と言えるようなものではありません。ゼミの進め方も何となくまだおぼつかない所もありますが、まだ新しいゼミだけに、自分達の力で自分達の好きな様に、自分達のゼミを作っていくことが出来ると思います。松村先生もまだ若いから、これからも頑張ってもらって、名市大に松村ゼミありと言われるようにしていきたいと思います。



山本ゼミナール

『山本安次郎先生の米寿を祝う会』



去る平成4年10月10日の午後4時より、京都三条の料亭「花斗」(はなのし)にて、山本安次郎名市大名誉教授の米寿を祝う会を催しました。二回生より六回生まで55名のゼミ生のうち12名が参集して先生の88歳のお祝いを致しました。

先生は大変お元気で、今でも広島の方へ横浜のご自宅から講義にお出かけとのことです。

紅葉には今一步の山々に囲まれた古都の街中の真新しい部屋で飲むほどに会話も盛り上がり、時間の過ぎるのも忘れ8時頃までとなりました。最後に先生のより一層の御健勝と我々もその長寿に肖れることを祈念して万歳三唱をしてお開きと致しました。

京懐石料理の品の良い姿と味を堪能でき、又、支配人氏のご好意で二次会の席をお世話になり、その上無宿者を一晩泊めて頂く恩義も頂戴した人があった由で、二重にも三重にも思い出深い集いでありました。

先生にお祝いの品として清水焼の抹茶茶碗(清水正次作)をお贈りしました。

八木得三 5期生

名市大とニューサウスウェールズ大学との教員交流

☆NSW大から名市大へ

去る7月、NSW大学のダニエル・レオナード先生が本学に3週間滞在されました。7月15日から3日間に渡り、大学院でご専門の「経済動学」の講義をしていただきました。英語での授業でしたので十分に理解できないこともありましたが、私達の語学能力に合わせて平易な表現で解説して下さいました。またセミナーにおいては、最先端の研究を紹介されるなど教育面のみならず、研究面でも熱心に取り組まれているご様子でした。

名市大院生 児島完二 22期生



☆名市大からNSW大へ

本年7月下旬より10月下旬まで約3ヶ月、

昨年成立した交流協定に基づいて、NSW大学を訪問させて戴いた。同大学はオペラハウスで有名なシドニーの市街にあって、オーストラリア国内でも高い評価を受けている伝統のある大学である。学生数は25,000~30,000人の総合大学で東南アジア諸国を中心に留学生が多いのも一つの特徴である。従って様々な国の出身者と会え、文化・生活の違いを知ることが出来ることにもなる。オーストラリアの学生は、職をえて支払能力ができる時点まで授業料の納入を延期できること、先生の学生に対する学業への要求は厳しく、学生は普段から懸命に勉強に励んでいること、特に留学生などはそのようにしてやっと付いて行けるという様子が印象的であった。しかしそれでも、失業率11%という不況のせいか、日本と逆に卒業しても必ずしも就職がままならないという点も驚きであった。

言葉は仲々ままならず、分からないままのことも多いが、大学さらに広い意味の文化の差を体験できた良い機会であった。

経済学部 教授 山田雅俊

**瑞名会総会・懇親会
盛大に開催**



11月13日（金）午後6時30分より、熱田区の国際会議場7階展望レストラン「パステル」において、平成4年度瑞名会（瑞山会 市役所支部）総会及び懇親会が開催され70名の同窓生が出席。

総会は、始めに新役員を選出が行われ、新会長には、西川義明（2期生）、副会長は、加藤俊之（同）、熊沢直人（5期生）。会計は小笠原幸生（6期生）、会計監査は黒宮孝二（5期生）の各氏が選出された。

前会長の阪野修二氏（1期生）から退任のあいさつと、引き続いて新会長の西川義明氏からフレッシュな就任のあいさつがあった。

懇親会に入って、加藤俊之氏の音頭で乾杯が行われると会場を包んでいた緊張が一気にほぐれた。会が進むなか、駆けつけた前田勝昭瑞山会々長（1期生）のあいさつもあり次第にあちらこちらに旧交を温める多くの談笑の輪ができた。足元に広がる白鳥の夜景は、素晴らしく又会を盛り立てた。

ビンゴゲームで最高潮となり、会場は大いに沸いた。

今回は、出席者が多く、特に女性が増加し、華やいだ雰囲気の中に2時間に亘る会の幕を閉じた。

事業部だより

去る10月31日第20会名市大OBゴルフコンペが、中日CCにて行われました。3組しか取れず、参加したい皆様には大変ご迷惑をおかけしました。優勝；藤原悟氏（1期生）、準優勝；西垣英昭氏（1期生）でした。また取り切り戦も行いましたが、そちらの優勝者も同じく藤原悟氏でした。

次回は来年4月23日（金）です。平日となりますが、最近のゴルフブームで、組数確保が容易でないためです。悪しからずご了承の上、参加希望の方はあらかじめご記憶ください。事業部の93年の予定は以下の通りです。奮ってご参加下さい。

スキーツアー

日 時：1993年1月23日（土）・24日（日）
 宿泊地：蓼名荘（名市大野外教育施設）
 担 当：逸見和弘（1期生）

自宅 ☎ 052-914-6221

勤務先 ☎ 052-502-7871（富士火災）

石川常彦（23期生）

自宅 ☎ 0594-42-0706

勤務先 ☎ 052-262-3174

（名古屋証券取引所）

参加希望の方は担当者までご照会下さい。

山崎川桜見散策と茶会

日 時：1993年4月4日（日）午後より
 場 所：名市大薬学部

恒例硬式テニスの会

日 時：1993年5月3日（祝）
 場 所：名市大経済学部
 テニスコート

